

これは『概要版』です。小中学校、教科別の詳しい結果および分析は[別のページ](#)に掲載しています。そちらを御覧ください。

平成 26 年度全国学力・学習状況調査における 佐賀市の子どもたちの結果



「全国学力・学習状況調査」ってどんな調査？

■ 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒の課題を検証し、その改善を図る。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

■ 調査対象 佐賀市立小学校第 6 学年、佐賀市立中学校第 3 学年

■ 調査内容

- ①教科に関する調査（国語、算数・数学）
 - ◇主として「知識」に関する問題【国語A、算数・数学A】
 - ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
 - ・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など
 - ◇主として「活用」に関する問題【国語B、算数・数学B】
 - ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
 - ・様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力など
- ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ◇児童生徒に関する調査
 - ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
 - ◇学校に対する調査
 - ・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

■ 調査実施日 平成 26 年 4 月 22 日（火）

全国学力学習状況調査は小 6・中 3 と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。したがって、ここに示しております結果につきましては、「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」とご理解ください。

各学校では、「調査結果分析検討委員会」を組織し、学習状況調査の分析をしたり、考察と指導法改善の方策について協議をしたりしています。個々の学校の結果については、各学校のホームページを御覧ください。

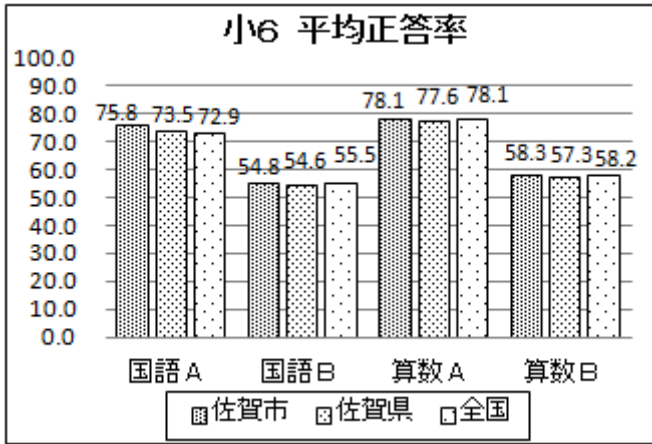
■佐賀市における調査対象

佐賀市立の小学校 35 校、中学校 18 校

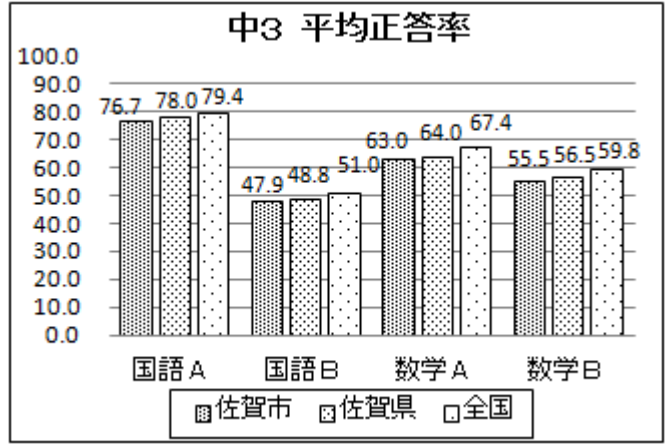


佐賀市立小中学校の子どもたちの結果はどうだったの？

①教科に関する調査



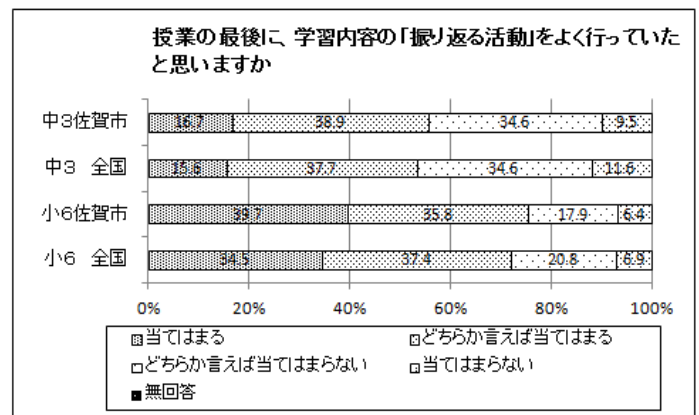
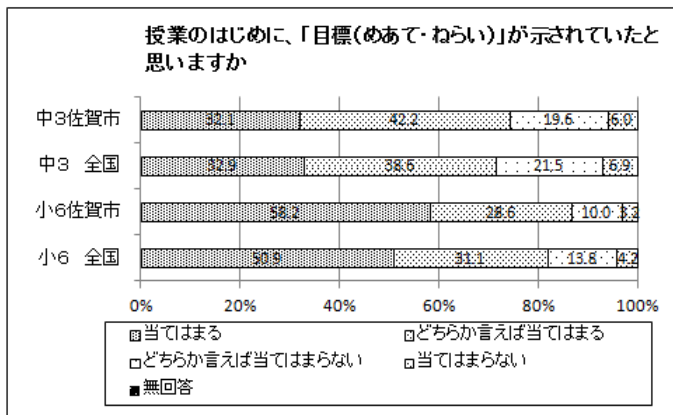
	国語A	国語B	算数A	算数B
佐賀市	75.8	54.8	78.1	58.3
佐賀県	73.5	54.6	77.6	57.3
全国	72.9	55.5	78.1	58.2



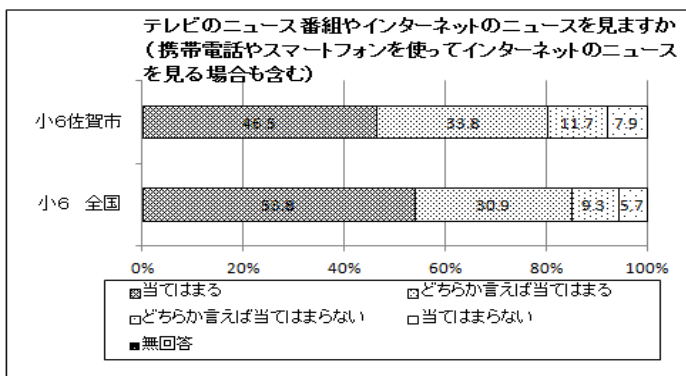
	国語A	国語B	数学A	数学B
佐賀市	76.7	47.9	63.0	55.5
佐賀県	78.0	48.8	64.0	56.5
全国	79.4	51.0	67.4	59.8

- 小学校6年生では、国語Aと算数Bが全国平均正答率を上回っており、算数Aは同等である。国語Bは全国平均正答率を下回っている。
- 中学校3年生では、国語A、国語B、数学A、数学Bすべてにおいて全国平均正答率を下回っている。(詳細な分析は、別添の各教科の結果をご覧ください。)

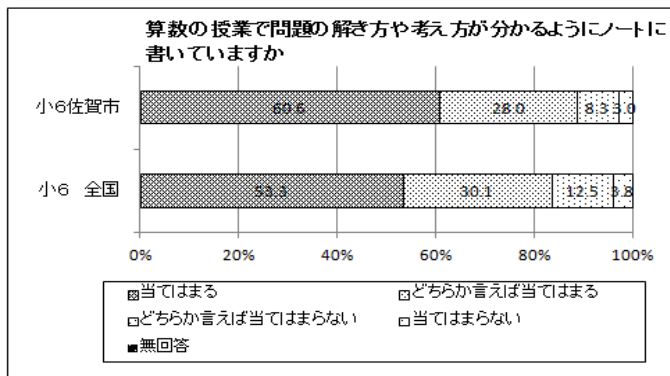
②生活習慣や学習習慣等に関する調査<児童生徒質問紙調査>



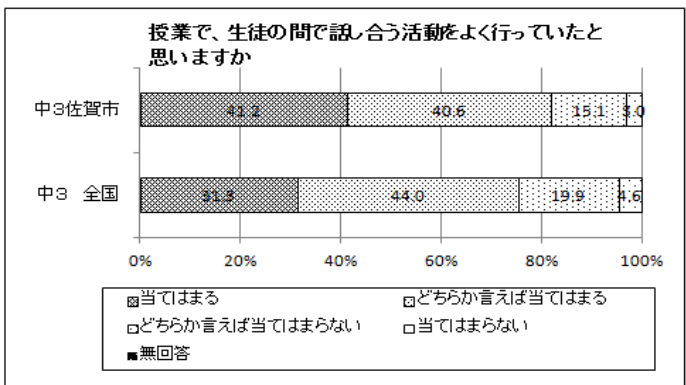
○国立教育政策研究所の調査において、「授業の始めに『目標』が示されていること」「授業の最後に『振り返る活動』が行われていること」が、学力と相関関係があると示されている。佐賀市では、共に「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した児童・生徒の割合が高い。平成25年度の本調査により、佐賀市では、この『目標と振り返り』が全国平均よりも意識されていないことが分かり、昨年度、全小中学校において改善に取り組んできた。児童生徒の意識においては、改善の傾向が大きく見られる。これを成果につなげていくため、今後もこの2点を継続・徹底していきたい。



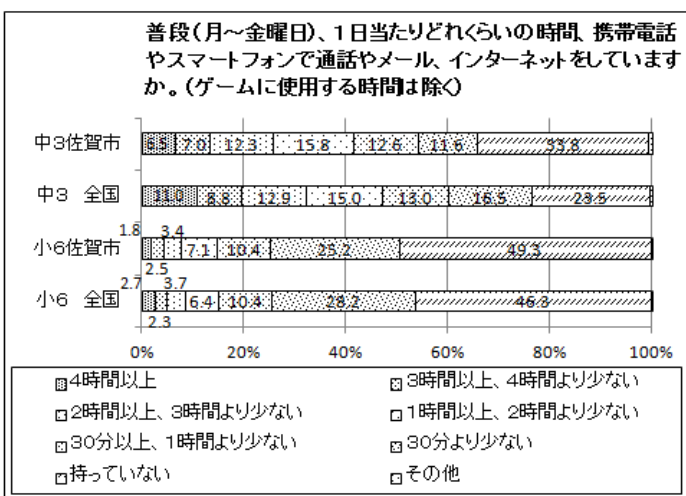
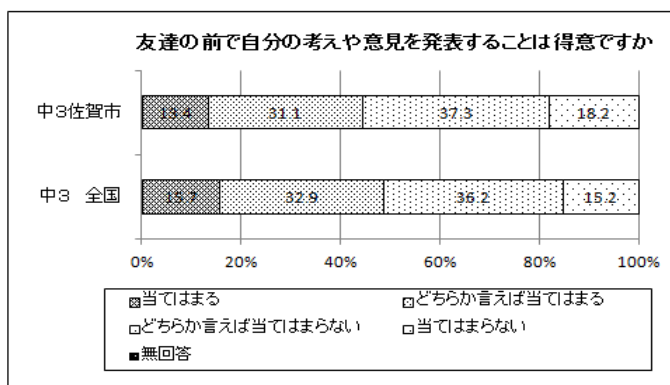
○ニュースを見る機会について、佐賀市は全国よりも「当てはまる」と回答した児童が少ない。この設問も学力との相関関係があると示されているので、学校と家庭で社会の動きに関心をもたせる取組が望まれる。



○ノートが単に書き写すものではなく、問題の解決法や考え方を記述して、学んでいる様子が分かる。今後もノート指導を継続・徹底していくことで主体的な学習方法を育成していきたい。

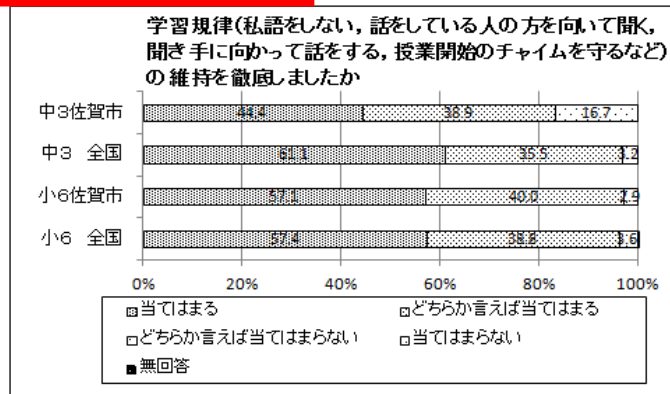


○「生徒間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」の質問に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した生徒の割合が高い傾向にあり、このことは評価できる。しかし、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」の質問に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した生徒の割合は低い傾向にあり、表現力の育成までには至っていない。思考・判断・表現力は「生きる力」の重要な一要素であり、今後は、話し合う活動の場を保障する取組を継続しながら、「何のために話し合うのか」等、話し合う目的や意義を十分に押さえ、活動の質を高めていく必要がある。



○学力との相関関係では、この質問に対して、「携帯電話やスマートフォンを持っていない」と回答した児童・生徒の正答率が一番高く、次に、使用時間が短いほど各教科の正答率が高い傾向が見られる。長時間の使用は「ネット依存」につながる恐れもあり、家庭で過ごす時間を有効に活用することが大切である。

③学校質問紙調査



○全国的には「学習規律の維持」を徹底した学校が、学力が高い傾向にある。佐賀市の中学校は、全国よりも「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した学校が少ない。学習の基盤となる学習ルールやマナーについては、小学校低学年から発達段階に応じた指導を継続していくことで、習慣付けていくことが必要である。